

今月の
トピックス

JCOG2402乳がんグループ 新規試験

JCOG乳がんグループの新しい試験であるJCOG2402「閉経前ホルモン受容体陽性HER2陰性早期乳がん患者に対する術前内分泌療法によるレスポンスガイド治療の有用性を検証するランダム化比較試験」が現在開始準備中です。本試験の立案、プロトコル作成、承認に至るまで、JCOGデータセンター、運営事務局、審査委員をはじめとする関係者の皆様には、多大なるご指導とご支援に心より感謝申し上げます。

本試験は、閉経前ホルモン受容体陽性HER2陰性早期乳がんに対して、術前内分泌療法の感受性に基づいた術後薬物療法の選択を行う治療戦略が、標準治療である手術＋術後薬物療法と比較して、予後を悪化させないことを検証する臨床試験です。

閉経前ホルモン受容体陽性HER2陰性早期乳がんでは、現在の標準治療は、まず手術を行い、病理結果に基づいて術後薬物療法を考慮する手術先行療法です。多遺伝子検査のオンコタイプDXを用いたリスク分類が広く用いられ、大部分を占める中間リスク群においては、閉経前でのみ、内分泌療法に対する化学療法の上乗せ効果が示されています。

一方、閉経前後で化学療法の上乗せ効果の違いがある理由として、閉経前の一部では化学療法の効果は殺細胞性効果によるものではなく、化学療法誘発性閉経による卵巣機能抑制によるものである可能性が示唆されています。中間リスクの中には、化学療法による殺細胞性効果が必要な患者と卵巣機能抑制のみで再発を抑制できる患者が混在していると考えられ、中間リスク患者の中から化学療法の必要性がない患者を選別することができれば、予後を損なうことなく、不要な化学療法を省略することができます。そこで、術前内分泌療法を用いて、内分泌療法への感受性を検証し、感受性が高い場合に化学療法を省略する治療戦略を考えました。本試験では、術前内分泌療法の感受性に基づいた術後薬物療法の選択を行う治療戦略が、標準治療である手術＋術後薬物療法と比較して、予後を悪化させないことを検証します。術前内分泌療法の感受性が高い場合に化学療法を省略し、内分泌療法単独で治療できる患者集団を増やすことができることを示し、本試験において非劣性が示されれば、術前内分泌療法は標準治療の一つとして用いることができます。



研究代表者
枝園 忠彦



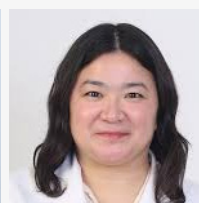
研究事務局
小野 麻紀子



研究事務局
相良 安昭



放射線治療研究事務局
川村 麻里子 西淵 いくの



これにより、より多くの閉経前ホルモン受容体陽性HER2陰性早期乳がん患者において、不要な化学療法を省略することができ、QOLの向上や、特に若年女性において重要であるサバイバーシップに配慮した治療戦略が可能となります。

本試験は、950例の大規模試験であるとともに、JCOG放射線治療グループによる放射線治療研究事務局、病理研究事務局、QOL研究事務局の先生方にもご協力賜り、JCOG乳がんグループで長年議論を重ねてきた極めて重要な研究です。我々はこの試験を通じて、閉経前ホルモン受容体陽性HER2陰性早期乳がん患者に対する新たな治療戦略を確立し、患者のQOL・サバイバーシップの向上に貢献することを目指します。試験の成功には、参加施設の関係各位および患者さんのご協力が必要不可欠です。引き続き皆様のご支援・ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



病理研究事務局
吉田 正行



津田 均



木川 雄一郎



QOL研究事務局
厚井 裕三子



植弘 奈津恵

研究代表者 岡山大学病院 乳腺内分泌外科 枝園 忠彦

研究事務局 がん研究会有明病院 総合腫瘍科 小野 麻紀子

相良病院 乳腺外科 相良 安昭

放射線治療研究事務局

名古屋大学医学部附属病院 放射線科 川村 麻里子

広島大学病院 放射線治療科 西淵 いくの

病理研究事務局

国立がん研究センター中央病院 病理科 吉田 正行

千葉メディカルセンター 病理診断科 津田 均

QOL 研究事務局

関西医科大学病院 乳腺外科 木川 雄一郎

九州がんセンター 乳腺科 厚井 裕三子

がん研究会有明病院 乳腺外科 植弘 奈津恵



JCOG公式SNS

JCOG研究に関わる研究結果やイベント情報など最新情報を発信しますので、ぜひフォローしてくださいね！

X ユーザーネーム: @JCOG_official URL: https://x.com/JCOG_official/

Facebookページ URL: https://www.facebook.com/JCOG_official

JCOGウェブサイトのトップページからも関連ページへアクセスいただけます。

JCOG研究の論文公表

◇ **大腸がんグループ JCOG1609INT** 片岡 幸三先生
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40960802/>

Diagnostic Accuracy of Imaging in Assessing Nonviability of Disappearing Colorectal Liver Metastasis. JAMA Surgery, 2025 Sep 17. Online ahead of print.

- [プレスリリースが行われました](#) (2025年9月30日)
- [研究開始時のプレスリリース](#) (2017年2月1日)

◇ **肺がん内科グループ JCOG1404/WJOG8214LA1** 岩間 映二先生
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40974872/>

Biological impact of chemotherapy during treatment with EGFR tyrosine kinase inhibitors for non-small cell lung cancer positive for EGFR activating mutations. Lung Cancer, 2025 Sep 16. Online ahead of print.

担当医別月間登録数

- ◇ **肺がん内科グループ** (月間登録数: 2)
鈴木幹人先生／がん・感染症センター都立駒込病院
村上修司先生／神奈川県立がんセンター
- ◇ **肺がん外科グループ** (月間登録数: 6)
鈴木潤先生／山形大学医学部
- ◇ **胃がんグループ** (月間登録数: 2)
花山寛之先生／福島県立医科大学附属病院
湯浅康弘先生／徳島赤十字病院
- ◇ **食道がんグループ** (月間登録数: 3)
浜井洋一先生／広島大学病院
- ◇ **リンパ腫グループ** (月間登録数: 2)
三科達三先生／千葉県がんセンター
- ◇ **脳腫瘍グループ** (月間登録数: 2)
郡山峻一先生／東京女子医科大学
木下雅史先生／金沢大学医学部
- ◇ **肝胆膵グループ** (月間登録数: 2)
丸木雄太先生／国立がん研究センター中央病院
小松久晃先生／大阪国際がんセンター
青木修一先生／東北大学病院

(担当医別最多登録数が1例のグループは割愛しています)

国立がん研究センター FUTUREプロジェクト

「満たされない患者ニーズを解決するための内科系研究プロジェクト」
皆さまからのあたたかいご支援が、多くの患者さんの「FUTURE(未来)」につながります。
https://www.ncc.go.jp/jp/d004/donation/future_project/index.html

グループごと月間登録数

登録数月次レポート
<https://secure.jcog.jp/DC/DOC/member/report/index.html>

グループ	7月	8月	9月	合計
肺がん外科	87	57	74	218
大腸がん	26	21	19	66
胃がん	17	27	15	59
肝胆膵	19	20	19	58
食道がん	21	12	18	51
リンパ腫	12	18	18	48
泌尿器科腫瘍	14	9	6	29
肺がん内科	11	9	8	28
消化器内視鏡	13	5	6	24
脳腫瘍	7	5	8	20
乳がん	7	5	7	19
放射線治療	7	1	5	13
骨軟部腫瘍	6	2	3	11
頭頸部がん	0	0	0	0
皮膚腫瘍	0	0	0	0
婦人科腫瘍	0	0	0	0
合計	247	191	206	644

JCOG
Japan Clinical Oncology Group

JCOGデータセンターより

● 2025年9月の登録例は206例でした

グループ別では肺がん外科が74例、続いて大腸がんと肝胆膵が19例、食道がんとリンパ腫が18例でした。引き続き臨床試験への登録をよろしくお願いいたします。

